

わきみず

発行者 曹洞宗
 普門山 林泉寺
 三戸町斗内字寺牛25
 0179-25-2850

檀信徒の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は当寺護持の為にご尽力を賜りまして感謝申し上げます。さて、去る十月十四日、当寺十六世中興圓通啓道大和尚の本葬儀は、皆様の御陰を持ちまして無事円成出来ました事、誠に有り難う御座いました。猶、御多忙中にも関わらずわざわざ御会葬頂きました方々、大変有り難う御座いました。当日は天気は良く、少し肌寒く感じましたが、御本寺法光寺様を導師にお迎えし、近隣の御寺院様方三十六名、総代十名、親族十二名で執り行いました。今回の本葬儀に際しまして

今後は、精進を重ね、先住の培って来たものを大事にし、当寺護持発展の為に邁進して参りたいと思っておりますので、檀信徒の皆様、伏してお願い申し上げます。



御協力賜りました事、厚く御礼申し上げます。

当寺十六世中興 圓通啓道大和尚遷化

哀悼

遺偈

ては、何かと御出費の多い折にも関わらず、檀信徒の皆様からの御丁寧なる御芳志(お悔やみ、献花料)を御礼申し上げます。

最後になりましたが、これから寒さが厳しくなり、さらに新型コロナウイルスもまだまだ収束の兆しが見えませぬので、檀信徒の皆様には御健康に留意下さる様御祈念申し上げます。本葬儀の御礼とさせていただきます。

令和二年 十二月

合掌

普門山 林泉寺

住職 飯原啓誠

総代一同

世話人一同

※「供養の申し込みは早め」

百四回忌	大正十一年
五十四回忌	昭和四十七年
三十七回忌	昭和六十年
三十三回忌	平成元年
二十七回忌	平成七年
二十三回忌	平成十一年
十七回忌	平成十七年
十三回忌	平成二十一年
七回忌	平成二十七年
三回忌	令和元年
一周忌	令和二年

令和三年 年回表

〒039-0122 三戸町大字斗内字寺牛25

林泉寺 Hpアドレス rinseiji.jimdo.com

0179-25-2850



墓地 仏事師退堂 弔辞 青森県宗務所 乗炬師 法光寺様 奠湯師 法円寺東堂様 親族 本葬前 本堂



住職 御礼挨拶 弔辞 護持会 会長 橋本静一 引導法語 奠茶師 耕田寺様 総代 随喜御寺院 御本寺 法光寺様

當寺十六世 中興
圓通啓道大和尚本葬儀式場
 (一般御会葬 弔問受付時間 十時半~十一時)
 令和二年十月十四日
 普門山 林泉寺

本葬儀の様子



茶毘式・茶毘出棺の様子



逝去を知らせる山門牌



導師 御本寺 法光寺様



拝請



親族 総代焼香

大練忌(四十九日忌)の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌
 令和二年十月十四日

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。



導師上殿



謝拝 行道

大練忌速夜・大夜の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。



導師退堂 献蜜湯



拈香法語 導師上殿

大練忌速夜・大夜の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。

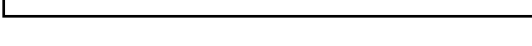


檀信徒よりの生花 献茶湯 導師上殿

大練忌速夜・大夜の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。



親族 総代 焼香 導師上殿

大練忌速夜・大夜の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。



導師 進前焼香 大衆 三拝

本葬儀 速夜・大夜の様子

檀信徒代表 護持会会長 橋本静一 合掌

山門本日、茲に当山十六世中興圓通啓道大和尚様の本葬儀を厳修されるにあたり、当山檀信徒一同を代表致しまして、謹んで哀悼の意を捧げます。
 啓道大和尚様は、約半世紀に亘り当寺繁栄、檀信徒教化の為に不惜身命の想いで力を注がれてまいりましたが、九十六歳の高齢を以て天壽を全うされ、従容としてご遷化されました。
 顧みますと、啓道大和尚様は、昭和三十三年九月、当山住職として入られ、私たち檀信徒一同の仰ぎ慕うべき灯りとして、大きな光を放ち続けて来られました。
 殊に、昭和六十年頃から始まった本堂普請の案は、寺檀一如の想いが見事結集して、平成元年には実を結び、平成五年に落慶法要を挙行する事ができました。
 当時の話を尋ねますと、寺、護持の為に果樹等を栽培し生活の糧にしたとか聞きましたが、大変な労苦もあつたでしょうが、多くは語らず唯々「うんうん」とうなずいて微笑みでいるだけでした。
 正に遺徳にありまますように、何も特別なことをしたことが素晴らしいのではなく、当たり前のことを当たり前のようによくやっていただけ、それが素晴らしいことではないかと教えているようでした。
 更に、平成十五年には庫裡の新築完成を見、我が身を忘れて当山の景観を一新されましたこと、報謝尽くし難きものであります。
 今、私たち一同、俄に大きな灯りを失い、深い悲しみと寂しさの気持ちで一杯です。しかし、いつまでも悲嘆に暮れてばかりおられません。
 向後は力を合わせ心を一にして当山興隆と寺檀和合に資する所存でございます。啓道大和尚様には、寂光浄土にあつご遺光を輝かし、当山並びにご遺族、また、私たちをお護り下さいますよう切にお祈り申し上げます。
 最後になりましたが、本日御随喜賜りましたご寺院様方をはじめ、檀信徒の皆様には、篤く御礼を申し上げますと共に、これからも当山に変わりなきご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 啓道大和尚様、長い間本堂に有り難うございました。安らかに眠り下さいますようご冥福をお祈り申し上げ、親しく導いて頂きました檀信徒一同に代わりまして、お別れの詞と致します。



茶毘式 茶毘終了



茶毘を終えて寺へ帰る



茶毘式 茶毘終了御礼挨拶



茶毘了ったの寺安位諷経



総代方に運ばれて出棺



若い和尚さんに運ばれて出棺